

全軟野連発第13号
令和8年1月23日

都道府県支部
理事長様

公益財団法人 全日本軟式野球連盟
専務理事 小山 吉男



2026年以降の学童部・少年部の大会運営に係る変更について(通知)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、令和7年12月5日開催の第4回理事会において、2026年以降の学童部・少年部の大会運営に係る変更点について承認を得ました。つきましては、別紙資料に記載の各項目および対象、導入時期をご確認頂きまして、登録チームへの周知・徹底を図るようお願い致します。

何卒宜しくお願い致します。

記

【概要】

- 内 容:2026年以降の学童部・少年部の大会運営に係る変更点について
- ・試合における選手アナウンスでの敬称略。(対象:学童・少年) ※導入:2026年～
 - ・試合時間の見直し。(対象:少年) ※導入:2027年～
 - ・同一試合での投手と捕手の兼任禁止。(対象:学童) ※導入:2027年～

- 添付資料:2026年以降の学童部・少年部の大会運営に係る変更点について(一覧)

以上

事務担当者:清野 祐 TEL:03-3404-8831

2026年以降の大会運営に係る変更点について(一覧)

No.	カテゴリー	項目	内容	導入時期
1	少年部 (学童・少年)	少年部における敬称略について	試合中の選手アナウンスは、全て敬称略とする。 ※「くん」・「さん」の廃止。	2026年(令和8年)から導入
2	少年	試合時間の見直し	健康面を考慮し、試合時間を2時間とする。 ※旧) 2時間30分 ⇒ 新)2時間	2027年(令和9年)から導入
3	学童	同一試合での投手と捕手の兼任 禁止	投手にかかる肘肩の負担は大きいことは明白であるが、同様に捕手も肘肩への負担が大きいが、ジョシンの一つであることを考慮し、同一試合中において投手と捕手の兼任を禁止する。 【適用ルール】 障害予防により、投手または捕手で出場した選手は、同一試合中において、投手が捕手につくことや捕手が投手につくことを禁止する。但し、他の守備位置につくことはできない。 なお、投手が捕手以外の守備位置につき、再び投手に戻ることはできない。捕手も同様に投手以外の守備位置についてから再び捕手に戻ることはできる。	2027年(令和9年)から導入